

# 日本語の「～たい」を用いた 願望疑問文の使用条件に関する一考察

島 千 尋

## 目次

0. はじめに
1. 先行研究
2. 願望疑問文の使用条件
3. 「現場性条件」の検証
  - 3.1 領域A
  - 3.2 領域B
    - 3.2.1 願望の対象が眼前にない場合
    - 3.2.2 願望の対象が疑問詞になっている場合
  - 3.3 領域C
    - 3.3.1 想像上の話の中での願望
    - 3.3.2 遠い未来の話の中での願望
4. 他の文法における「現場性条件」
5. 終わりに

## 0. はじめに

日本語における願望を表す「～たい」については、以前よりその使用条件に関して多くの記述がなされてきた。「田中さんはビールが飲みたいで

---

キーワード：日本語、願望疑問文、聞き手の私的領域

す」などが非文になるといった、『～たい』もしくは『～たいです』のみの形では第三者の願望を表すことはできない」というものが最もよく知られ、日本語学習者に対する日本語教育の場でも教えられているのが通例であると思う。

これに加え、一般に知られている記述に『～たいですか』という質問の形は、目上もしくは親しくない聞き手に使うと失礼になる」というものがある。例えば以下のような例である。

(1) 先生、アイスクリーム食べたいですか。

確かにこの例を見る限り、上記の記述は正しいと感じられる。しかし、それはどのような場合にも当てはまるのだろうか。「～たいですか」という質問は目上に対してはいかなる場合も認められないのであろうか。

また、一方で、親しい聞き手に願望を尋ねる「～たい？」という形は、従来、その使用制限が問題にされてこなかったが、これも本当にどのような場合でも使用可能なのであろうか。

本稿はこの点に関して検証を行い、「～たい」を用いた願望疑問文について、新たな使用条件を提起したい。さらにそれが「～つもりです」といった意向表現にも同様に見られるものである可能性にも触れたいと思う。

## 1. 先行研究

目上もしくは親しくない聞き手に対し「～たいですか」という願望疑問文を使用することが丁寧さを欠くという記述は多くの文献に見られる。

例えば、鈴木(1989)は、

日本語における日常生活において、来客に「コーヒー召し上がりたいですか」と(略)尋ねることはない。(略)「コーヒーはいかがですか。」「コーヒーと紅茶とどちらがよろしいでしょうか。」のように聞き手の欲求・願望に直接言及しない形で尋ねるのが普通である。(略)この

日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

ように、聞き手の欲求・願望や感情・感覚について直接質問したり、自己の判断を述べたりすることは、丁寧さという点からは不適切となることがある。

と述べ<sup>1)</sup>、「情報以外に「聞き手の欲求・願望・意志・感情・感覚など、個人のアイデンティティに深くかかわる領域」をも含むもの」を「聞き手の私的領域」と呼んだ上で、

- (2) 先生、アイスクリーム食べたい？
- (3) 先生、アイスクリーム食べたいですか。
- (4) 先生、アイスクリーム召し上がりたいですか。

以上の例を挙げ（それぞれ鈴木（1989）では（3）（4）（5））、

- (3) の発話は、「聞き手の私的領域」に関わるものであるが、(4)
- (5) のように文の形だけを丁寧にしても失礼であることに変わりがなく、日本語としてもぎこちないものになってしまう。

と述べている<sup>2)</sup>。

また、蒲谷・川口・坂本（1998）は、「第IV章 適切な「敬語表現」にするために」の中で「課長もコーヒーをお飲みになりたいですか。」という文を取り上げ、

もちろん、「お飲みになりたいですか」に「敬語」としての誤りはありませんが、「～たいですか」という点に「敬語表現」としての問題が出てくるわけです。日本語では、特に「上位者」である「相手」の意志を尋ねることは「敬語表現」としてはふさわしくないからです。

と述べており<sup>3)</sup>、さらに、日本語教授者向けの参考書である庵・松岡・中西・山田・高梨（2000）は、「「丁寧に話す」とは？」と題した記述の中で、

(5) 先生、コーヒーをお飲みになりたいですか。（上記中では（3）という例を挙げ、その後、

上の表現は形の上では正しい敬語です。にもかかわらず、(略)聞き手に対して失礼になりますが、それはなぜでしょうか。(略)(3)は目上の人希望を直接尋ねている点で失礼になっていると考えられます。

と述べている<sup>4)</sup>。上記参考書の姉妹版である庵・中西・高梨・山田・白川(2001)も、コラム「対照研究(3)——「いっしょに行きたいですか」——」の中で、

- (6) ×これもコピーしてほしいですか。→○これもコピーしましょうか。(上記中では(1))

上記の例文を挙げた上で、

日本語では(1)のような聞き手の願望を尋ねる願望疑問文をソトの相手に用いることは失礼だとされています。

日本語では願望疑問文は聞き手の感情的領域を侵すものだと考えられているためです。

としている<sup>5)</sup>。

他の日本語教授者向け参考書でも同様で、市川(2005)には、「質問文「～たいですか」について」というタイトルで、

質問文「食べたいですか」を使うと、相手によっては失礼になることがあります。友達どうしなら、「何を食べたい?」と使えますが、上司や年配の人に、「何を食べたいですか」は失礼になります。「何を召し上がりますか」とか「何がよろしいですか」を使うように指導してください。

とあり<sup>6)</sup>、友松・和栗・宮本(2010)には、「～たいですか」の説明として、丁寧聞く場合や、目上の人には直接使わないほうがいい。(おみやげ屋で)課長、何が買いたいですか。→○課長、何をお買になりますか。

## 日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

とある<sup>7)</sup>。また、高嶋・関・岩原・内山・川野・チャン（2018）では、「「～たいです」の留意点」として、

「お茶を飲みたいですか。」のように、あまり親しくない人や目上の聞き手に対し、願望を尋ねるのは失礼になるので、注意して指導しましょう。この場合、「お茶を飲みますか。」や「お茶はいかがですか。」などを使います。

と述べられている<sup>8)</sup>。

これらの記述は、日本語母語話者の言語感覚に照らして、確かに正しいと感じられる。しかし、この「「～たいですか」という願望疑問文は目上や親しくない聞き手に使うと失礼になる」という事実は、いかなる場合でも成り立つことであろうか。例えば、以下の例はどうであろうか。

(7) もし100万円あったら、先生は何をお買いになりたいですか。

(8) 社長は、将来、どのような製品をお作りになりたいですか。

前掲(1)「先生、アイスクリーム食べたいですか。」やそれを敬語にした「先生、アイスクリーム召し上がりたいですか。」と比べると、その失礼さ・不自然さは相当に低いと感じられ、人によってはほとんど失礼さを感じないこともあるかもしれない。つまり、「～たいですか」という願望疑問文は目上や親しくない聞き手に使ってもそれほど失礼ではない場合があるということになる。

逆に、鈴木（1989）が、

聞き手の私的領域に属する事柄に言及した発話は、低いスタイルでごく親しい友人や家族に言うときには問題がないが、……

としているように<sup>9)</sup>、願望疑問文が「～たい？」という親しい間柄に使われる形になる場合は制限は問題にされない。しかし、以下の例では「～たい？」を用いるのはかなり不自然である。

(9) 姉：暑い～。

妹：うん、暑いね～。……あ、そうそう。(冷蔵庫からアイスクリームを出して目の前に差し出して) ほら、アイスクリーム。食べたい？

(10) (友人との買い物中)

A：ああ、疲れた。ちょっと休みたいね。

B：そうだね。……あ！ほら、あの「ami」っていう喫茶店、けっこう評判なんだって。入りたい？

「～たいですか」であってもあまり不自然さを感じない場合もあれば、「～たい？」であっても不自然な場合もあることになる。

ではそれはどのような場合か。願望疑問文の使用条件をどう考えればよいか。以下にそれについての提起を行いたい。

## 2. 願望疑問文の使用条件

願望疑問文についてここで提起したい使用条件は以下である。

### 「現場性条件」

聞き手の願望が属する「聞き手の私的領域」には強弱があり、「現実の、今、この場」という「現場」に最も強く存在し、そこから乖離するにしたがって弱くなっていく。そのため、願望疑問文の許容度もこれに応じて以下のように変化する。

- 最も「現場性」が強い場合→目上はもちろん、親しい間柄であっても願望を問うことは許されない。
- 「現場性」がやや弱まった場合→他者が立ち入りやすくなり、親しい間柄なら願望を問うことが許されるようになる。
- 「現場性」がさらに弱まった場合→より制限が緩和され、親しい

日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

問柄はもちろん、目上に対してでもその願望を問うことができるようになる。

上記を図および表に表すと以下の通りとなる。

図1 「現場性」および「聞き手の私的領域」の領域図

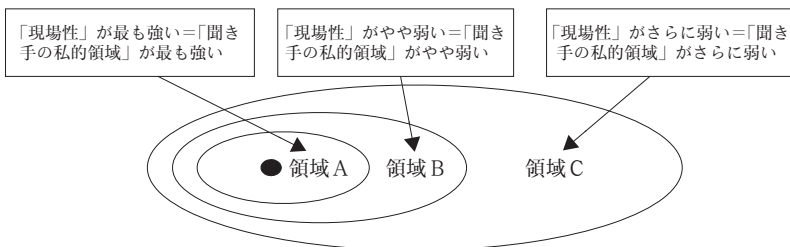


表1 「現場性」および「聞き手の私的領域」と願望疑問文との相関

	領域A 「現場性」が最も強い	領域B 「現場性」がやや弱い	領域C 「現場性」がさらに弱い
「聞き手の私的領域」	最も強い	やや弱い	さらに弱い



		領域A	領域B	領域C
願望疑問文	親しい問柄	×	○	○
	目上	×	×	○

領域A・B・Cの「現場性」の強弱から考えて、それぞれの願望が以下のようなものだとすると、それへの疑問文に対する許容度は上記の表1と併せて下の表2のようになると考えられる。

表2 領域A・B・Cにおける願望とその疑問文に対する許容度予想

		領域A 「現場性」が最も強い	領域B 「現場性」がやや弱い	領域C 「現場性」がさらに弱い
願望		現実の、今、この場にある眼前の特定の現物に対する願望	現実の、今、ではあるが、①この場のないもの、あるいは、②特定されないものに対する願望	①現実ではなく想像上の話の中での願望、あるいは、②今ではなく遠い未来の話の中での願望
願望疑問文	親しい間柄	×	○	○
	目上	×	×	○

以下、これを検証したい。

### 3. 「現場性条件」の検証

#### 3.1 領域A

まず、「現場性」が最も強い領域A、すなわち「現実の、今、この場にある眼前の特定の現物に対する願望」の場合である。

最初に、目上の者に対して「～たいですか」で願望を尋ねる例を見る。

予想される通り、以下のように、「ますか」で尋ねたaは問題ないのに対し、「～たいですか」を用いたbは非常に失礼で全く許容されない。

(11) a. (ビュッフェ形式の懇親会でコップについだビールを差し出して)

社員：部長，ビール，召し上がりますか。どうぞ。

b. (ビュッフェ形式の懇親会でコップについだビールを差し出して)

社員：\*部長，ビール，召し上がりたいですか。どうぞ。

飲食ではない以下の(12)(13)も同様に、「ますか」であれば問題ないが「～たいですか」は不可となる。

(12) a. (訪ねてきた卒業生と歓談中)

卒業生：すみません，ちょっとたばこ，よろしいですか。



日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

先生：ああ，どうぞ。

卒業生：（たばこを差し出して）先生もおたばこお吸いになりますか。

b. （訪ねてきた卒業生と歓談中）

卒業生：すみません，ちょっとたばこ，よろしいですか。

先生：ああ，どうぞ。

卒業生：（たばこを差し出して）\*先生もおたばこお吸いになりたいですか。

(13) a. （外回りの営業中）

課長：疲れたな。どこかゆっくりできるところはないかな。

社員：課長，あそこにあるあの「ami」っていう喫茶店，なかなか雰囲気がいいって評判なんですけど，いかがですか，お入りになりますか。

b. （外回りの営業中）

課長：疲れたな。どこかゆっくりできるところはないかな。

社員：\*課長，あそこにあるあの「ami」っていう喫茶店，なかなか雰囲気がいいって評判なんですけど，いかがですか，お入りになりたいですか。

だがこれは「～たいですか」に限らない。兄弟間の会話であっても，眼前の特定のものに対して「～たい？」を用いて願望を問うた文は不自然になる。以下は「～たい」を用いない場合（a）と用いた場合（b）の比較であるが，aが問題ないのに対し，bは不自然である（bは上掲（9）の再掲）。

(14) a. 姉：暑い～。

妹：うん，暑いね～。……あ，そうそう。（冷蔵庫からアイスクリームを出して目の前に差し出して）ほら，ア

アイスクリーム。食べる？

b. 姉：暑い～。

妹：\*うん、暑いね～。……あ、そうそう。(冷蔵庫からアイスクリームを出して目の前に差し出して) ほら、アイスクリーム。食べたい？

わざわざ「～たい」を使って聞く必要はなく、あえて使うと、食べたいだろうけどあげないよ、とでも言っているかのような含みを感じられ、聞き手の願望のみを純粹に聞いているようには聞こえない<sup>10)</sup>。

「～たいですか」を使った (12) (13) を親しい間柄に変えた以下の (15) (16) も同様に、a が自然なのに対し、b は不自然である ((16) b は上掲 (10) の再掲)。

(15) a. (自分のたばこに火をつけ、もう一本を目の前の弟に差し出して)

兄：どう？お前も吸う？

b. (自分のたばこに火をつけ、もう一本を目の前の弟に差し出して)

兄：\*どう？お前も吸いたい？

(16) a. (友人との買い物中)

A：ああ、疲れた。ちょっと休みたいね。

B：そうだね。……あ！ほら、あの「ami」っていう喫茶店、けっこう評判なんだって。入る？

b. (友人との買い物中)

A：ああ、疲れた。ちょっと休みたいね。

B：\*そうだね。……あ！ほら、あの「ami」っていう喫茶店、けっこう評判なんだって。入りたい？

従来、「～たいですか」についての制限は1. に挙げたように数多く言

## 日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

及されてきたが、「～たい？」については制限は問題にされてこなかった。しかし、上に見たように、「～たい？」でも、「現実の今、この場にある眼前の特定の現物に対する願望」を問う場合は不自然になる。すなわち、このように、「現場性」が最も強い場合は、聞き手との親疎関係に関わらず、願望疑問文は成立しにくくなると言えよう。

### 3.2 領域B

次に、「現場性」がやや弱まった領域B、すなわち「現実の、今、ではあるが、①この場にはないもの、あるいは②特定されないものに対する願望」の場合を見る。

#### 3.2.1 願望の対象が眼前にない場合

まずは上記の①、「現実の、今、ではあるが、この場にはないものに対する願望」である。例えば、以下では、現実の今の願望を聞いているが、(17)であれば「ビール」、(18)であれば「パソコン」は眼前にはない。このときも、「ますか」を用いたaは問題ないのに対し、「～たいですか」を用いたbは相当に失礼である。

##### (17) a. (ビュッフェ形式の懇親会で)

社員：部長、ビール、召し上がりますか。ほく、取ってきます。

##### b. (ビュッフェ形式の懇親会で)

社員：\*部長、ビール、召し上がりたいですか。ほく、取ってきます。

##### (18) a. 社内のIT担当社員：テレワークご希望でしたら設定をいたしますが、部長はご自宅でもパソコンをお使いになりますか。

##### b. 社内のIT担当社員：\*テレワークご希望でしたら設定を

いたしますが、部長はご自宅でもパソコンをお使いになりたいですか。

1. に示した各文献に「失礼である」「問題がある」とされた例は、多くがこれに当たる。

しかし、「～たい？」を用いた親しい間柄の会話になると、このような願望疑問文は許容度が上がる。以下の(19)bは上掲(14)の設定を変え、冷蔵庫からアイスクリームを出す前に聞いている会話にしたものであるが、アイスクリームを眼前に差し出している領域Aの(19)aに比べ、眼前にない領域Bの(19)bはいくぶん許容度が高くなる。

(19) a. 姉：暑い～。

妹：\*うん、暑いね～。……あ、そうそう。(冷蔵庫からアイスクリームを出して目の前に差し出して) ほら、アイスクリーム。食べたい？(領域A)

b. 姉：暑い～。

妹：うん、暑いね～。……あ、そうそう。冷蔵庫にアイスクリームあるよ。食べたい？(領域B)

また、(20)は上掲(18)を家族間の会話状況に変えたものであるが、「～たいですか」を用いたbが許されなかった(18)に比べ、家族間の(20)は、aとbの許容度の差はほぼない。

(18) a. 社内のIT担当社員：テレワークご希望でしたら設定をいたしますが、部長はご自宅でもパソコンをお使いになりますか。

b. 社内のIT担当社員：\*テレワークご希望でしたら設定をいたしますが、部長はご自宅でもパソコンをお使いになりたいですか。

(20) a. 兄：佳子、ちょっと家の中のwifiのルーターの場所、考

## 日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

えてるんだけど、お前、自分の部屋でもパソコン使  
う？

- b. 兄：佳子、ちょっと家の中のwifiのルーターの場所、考  
えてるんだけど、お前、自分の部屋でもパソコン使  
たい？

このように、願望の対象が眼前になく、「現場性」がやや弱くなる場合、目上に対しては願望疑問文はやはり許されないが、親しい間柄なら許容度が上がることが観察される。

### 3.2.2 願望の対象が疑問詞になっている場合

次に、領域Bのもう一つ、「現実の、今、ではあるが、特定されないものに対する願望」の場合である。これは特定の物について聞くのではなく疑問詞を用いて願望を尋ねるもので、以下の例がそれに当たる。この場合でも、「～たいですか」の願望疑問文が失礼で不自然なのに対し((21)b), 「～たい？」の願望疑問文は許容される((22)b)。

#### (21) a. (夜, 退社時に)

社員：すっかり遅くなりましたね。課長、一緒にお食  
事もいかがですか。

課長：うん、そうだな。行こうか。

社員：何を召し上がりますか。

#### b. (夜, 退社時に)

社員：すっかり遅くなりましたね。課長、一緒にお食  
事もいかがですか。

課長：うん、そうだな。行こうか。

社員：\*何を召し上がりたいですか。

#### (22) a. (夫婦で外出中)

夫：さあ、買い物も済んだし、レストラン行って食事にし

ようか。

妻：うん、そうだね。おなかすいた。

夫：何食べる？

b. (夫婦で外出中)

夫：さあ、買い物も済んだし、レストラン行って食事にしようか。

妻：うん、そうだね。おなかすいた。

夫：何食べたい？

以下も同様に、(23) bの目上に対する願望疑問文は許容されないが、(24) bの親しい相手への願望疑問文は問題がない。

(23) a. (昼食を食べようとして、二つのレストランの前で)

社員：うーん、どっちの店もうまそうですね。部長、どちらにお入りになりますか。

b. (昼食を食べようとして、二つのレストランの前で)

社員：\*うーん、どっちの店もうまそうですね。部長、どちらにお入りになりたいですか。

(24) a. (友人と昼食を食べようとして、二つのレストランの前で)

男：うーん、どっちの店もうまそうだなあ。お前、どっちに入る？

b. (友人と昼食を食べようとして、二つのレストランの前で)

男：うーん、どっちの店もうまそうだなあ。お前、どっちに入りたい？

以上、「現実の、今、ではあるが、①この場にはないもの、あるいは②特定されないものに対する願望」という、「現場性」がやや弱まった領域Bでは、目上への「～たいですか」を用いた願望疑問文は領域A同様不自然となるが、「～たい？」を用いた親しい相手への願望疑問文は領域Aと異

なり自然になることが見て取れる。

### 3.3 領域C

最後に、「現場性」がさらに弱まった領域C, すなわち「①現実ではなく想像上の話の中での願望, あるいは②今ではなく遠い未来の話の中での願望」の場合を検証する。この場合, 以下に見る通り, 領域Aや領域Bで不自然であった目上への「～たいですか」という願望疑問文も, かなり許容度が高くなることが観察される。

#### 3.3.1 想像上の話の中での願望

まずは「現実ではなく想像上の話の中での願望」について見る。以下のように、「ますか」の形の疑問文であれば, 現実の話であっても ((25) a) 想像上の話であっても ((25) b) 許容度に差はない ((25) aは (23) aの再掲)。

(25) a. (昼食を食べようとして, 二つのレストランの前で)

社員: うーん, どちらの店もうまそうですねえ。部長, どちらにお入りになりますか。

b. (会議で)

社員: これが新しい店舗のデザイン案です。もし部長が客としてこの店の前にいるとしたら, AとBのどちらにお入りになりますか。

しかし, 「～たいですか」を用いた願望疑問文になると, 現実の話の中での願望を聞いた (26) aは不自然であるものの, 想像上の話の中での願望を聞いた (26) bは許容度が高くなる ((26) aは (23) bの再掲)。

(26) a. (昼食を食べようとして, 二つのレストランの前で)

社員: \*うーん, どちらの店もうまそうですねえ。部長, どちらにお入りになりたいですか。

b. (会議で)

社員：これが新しい店舗のデザイン案です。もし部長が客としてこの店の前にいるとしたら、AとBのどちらにお入りになりたいですか。

以下の例でも同様に、「～ますか」の形の疑問文であれば現実の話((27) a)と想像上の話((27) b)に差がないのに対し、願望疑問文になると両者に差が生じ、想像上の話における願望((28) b)は現実の話における願望((28) a)より許容度が上がる。

(27) a. (出張先のおみやげ屋で)

社員：課長、ご家族におみやげですか。

課長：うん、そうなんだよ。

社員：いろいろ珍しいものがありますねえ。何をお買いになりますか<sup>11)</sup>。

b. (雑談で)

社員：そろそろボーナスの時期ですね。

課長：そうだなあ。うちはローンの返済でほとんどなくなっちゃうけど……。あと100万円ぐらいあったらなあ。

社員：はは……。課長はもし100万円あったら何をお買いになりますか。

(28) a. (出張先のおみやげ屋で)

社員：課長、ご家族におみやげですか。

課長：うん、そうなんだよ。

社員：\*いろいろ珍しいものがありますねえ。何をお買いになりたいですか。

b. (雑談で)



日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

社員：そろそろボーナスの時期ですね。

課長：そうだなあ。うちはローンの返済でほとんどなくなっちゃうけど……。あと100万円ぐらいあったらなあ。

社員：はは……。課長はもし100万円あったら何をお買いになりたいですか。

これは、疑問詞を使わない疑問文であっても同様である（(29) a は (18) a の再掲）。

(29) a. 社内の I T 担当社員：テレワークご希望でしたら設定をいたしますが、部長はご自宅でもパソコンをお使いになりますか。

b. 課長：昨日、テレビでやってた映画で、指輪サイズのパソコンが出てきたよ。

社員：あ、それ、ほくも見ました。あんなのあったらすごい便利ですよ。課長はいかがですか、指輪サイズのパソコンが開発された場合、やっぱりお使いになりますか。

上記のように「～ますか」の疑問文であれば現実の話であっても想像上の話であっても差がないが、

(30) a. 社内の I T 担当社員：\*テレワークご希望でしたら設定をいたしますが、部長はご自宅でもパソコンをお使いになりたいですか。

b. 課長：昨日、テレビでやってた映画で、指輪サイズのパソコンが出てきたよ。

社員：あ、それ、ほくも見ました。あんなのあったらすごい便利ですよ。課長はいかがですか、指輪サイズ

のパソコンが開発された場合、やっぱりお使いになりたいですか。

このように「～たいですか」を用いた願望疑問文の場合は、現実の話の(30) a ((18) bの再掲)より想像上の話の(30) bの方が許容度が高く感じられる。

以上のように、「現場性」が相当に弱くなる「想像上の話の中での願望」の場合、目上への願望疑問文であってもかなり許容されると言えるであろう<sup>12)</sup>。

### 3.3.2 遠い未来の話の中での願望

次は、領域Cのうちの「今ではなく遠い未来の話の中での願望」について見る。

この場合も、以下のように、「ますか」の形であれば、今の願望であっても((31) a) 遠い未来の話の中での願望であっても((31) b) 差はない。

#### (31) a. (ビュッフェ形式の懇親会で)

社員：部長、何を召し上がりますか。ほく、取ってきます。

#### b. (雑談で)

社員：今日見た雑誌で「人生最後の晩餐」っていう特集をやっています。

部長：へえ。最期の日のメニューっていうわけだね。

社員：はい。部長は人生最後の日に何を召し上がりますか。

しかし、願望疑問文になると、今、この場での願望は失礼で不自然なのに対し((32) a), 遠い未来の話の中での願望((32) b)はかなり自然になる。

#### (32) a. (ビュッフェ形式の懇親会で)

社員：\*部長、何が召し上がりたいですか。ほく、取ってきます。

日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

b. (雑談で)

社員：今日見た雑誌で「人生最後の晩餐」っていう特集をやっています。

部長：へえ。最期の日のメニューっていうわけだね。

社員：はい。部長は人生最後の日に何が召し上がりたいですか。

以下も同様である。

(33) a. 社長：これが新製品のサンプルか。

社員：はい、こんなふう材料を入れて、お好きな味のボタンを押して、ハンドルを3回回せば……はい、濃厚スムージーの出来上がりです。

社長：なるほど、おもしろそうだな。

社員：社長もお作りになりますか。どうぞ。

b. インタビュアー：御社はこれまでハイテク家電製品から日常生活に役立つグッズまで様々なものを開発されていますね。

社長：うん、そうだね。

インタビュアー：素晴らしいですね。将来は、どのような製品をお作りになりますか。

このように、「～ますか」では、今の願望 ((33) a) と遠い未来の話の中での願望 ((33) b) に差は見られない。しかし、

(34) a. 社長：これが新製品のサンプルか。

社員：はい、こんなふう材料を入れて、お好きな味のボタンを押して、ハンドルを3回回せば……はい、濃厚スムージーの出来上がりです。

社長：なるほど、おもしろそうだな。

社員：\*社長もお作りになりたいですか。どうぞ。

- b. インタビュアー：御社はこれまでハイテク家電製品から日常生活に役立つグッズまで様々なものを開発されていますね。

社長：うん、そうだね。

インタビュアー：素晴らしいですね。将来は、どのような製品をお作りになりたいですか。

「～たいですか」を用いた願望疑問文になると、今、この場での願望を尋ねる (34) a は失礼であるが、遠い未来の話の中での願望を尋ねる (34) b は許容度が高い。

以下のように疑問詞を用いない場合でも同様である。

- (35) a. 課長：今日、息子が海外赴任先から帰ってくる予定でね。  
現地酒とか食べ物とかみやげがいろいろあるらしくて。

社員：そうですね、それはいいですね。今晩は息子さんと一杯おやりになりますか。

- b. 社員：親子で酒を酌み交わすっていいですよ。

課長：うん、そうだなあ。うちはまだ幼稚園だからずいぶん先の話だけどね。

社員：あはは、そうですね。でも、息子さんが成人されたら、やっぱりご一緒に一杯おやりになりますか。

このように「ますか」では両者に差はないが、

- (36) a. 課長：今日、息子が海外赴任先から帰ってくる予定でね。  
現地酒とか食べ物とかみやげがいろいろあるらしくて。

社員：\*そうですね、それはいいですね。今晩は息子さん

## 日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

と一杯おやりになりたいですか。

b. 社員：親子で酒を酌み交わすっていいですよ。

課長：うん、そうだなあ。うちはまだ幼稚園だからずいぶん先の話だけどね。

社員：あはは、そうですね。でも、息子さんが成人されたら、やっぱりご一緒に一杯おやりになりたいですか。

上記の a は「今この場」からはやや離れているが、それでも (36) a は、遠い未来の話の中での願望を問う (36) b とはかなり許容度に差があり、b の方が自然である<sup>13)</sup>。

このように、領域 A や B より「現場性」がさらに弱まった領域 C、すなわち想像上の話や遠い未来の話の中での願望であれば、目上への願望疑問文であってもかなり許容度が高くなり、自然になることが観察される。

以上、願望疑問文について 2. に示した「現場性条件」を検証し、最も「現場性」の強い領域 A では目上の者はもちろんのこと親しい者であっても願望疑問文は不自然となるが、やや「現場性」の弱まった領域 B では親しい者に対しては許されるようになり、さらに「現場性」の弱まった領域 C では目上の者に対しても制限が緩和されることを確認した。

このことより、聞き手の願望が属する「聞き手の私的領域」は、いつでもどこでも一様に存在するものではなく、「現実の、今、この場」という「現場」に最も強く存在しており、その「現場性」が弱まっていくにつれ「聞き手の私的領域」も弱くなっていく、すなわちその程度には強弱があると考えることができるのではないだろうか。

### 4. 他の文法における「現場性条件」

上記の「聞き手の私的領域」に関する「現場性条件」は、これまで見て

きた願望疑問文だけでなく、一般に目上や親しくない聞き手に使うと失礼になるとされている他の文法にも同様に見られるように思われる。

その一つが「～つもりですか」である。これに関しては、以下に鈴木(1989)が述べているとおり、「～つもり」に代表されるような相手の意志・意向に関することは聞き手の私的領域に属しており、これを尋ねることは失礼になるとされている<sup>14)</sup>。鈴木(1989)は以下の例を挙げ、

(37) 夏休みは何をするつもりですか。(鈴木(1989)では(14))

(38) 夏休みは何をなさるおつもりですか。(鈴木(1989)では(15))  
その後、

(14)(15)が聞き手に不快感を与えるのは、この質問が夏休みに聞き手が何かをするはずであるという前提に立って質問していること、つまり、聞き手の私的領域に属する意志・意向を直接尋ねているからである。「夏休みに何かをするかどうか」「夏休みに何かするとすれば、何をするか」は聞き手が決定することであり、聞き手の私的領域に属するものであるので、聞き手の意志決定を問う「何をするつもりですか。」という文は聞き手の私的領域に踏み込むことになり、丁寧さを欠く発話となる。

と述べている。

確かに鈴木が挙げている例のとおり、「～つもりですか」を使って相手の意志を尋ねるのは失礼に感じる。以下の例も同様である。

(39) (廊下ですれ違った教師に)

学生：\*あ、先生、どちらにいらっしゃるつもりですか。

相手の意志を純粹に聞いているというより、「今は仕事なのに」と相手を詰問しているような含意があるように感じられてしまう。

しかし、これは目上に対する質問でなくとも同じことが観察される。以下は妹から姉への質問である。

日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

(40) (出かけようとしている姉に)

妹：\*あ、お姉ちゃん、どこに行くつもり？

親しい家族間であっても、上記の詰問調の含意は同じである。

この両者に共通するのは、どちらも「現実の、今、この場」での意志、という点である。すなわち、「～つもり」を使った意志疑問文は、相手が目上であろうと親しい間柄であろうと、「現実の、今、この場」での意志を聞く質問としては成立しないと言えるのである。

だが、以下の質問はどうであろうか。

(41) インタビュアー：社長は将来はどのような製品をお作りになる  
おつもりですか。

(42) 社員：課長はお子さんが大きくなったら、どんな習い事をさせる  
おつもりですか。

上記の(39)(40)に比べると、相当に許容度が上がるように感じられる。これらの例は、「～たいですか」でも許容度の高かった「遠い未来の話」である。「遠い未来の話」であれば、目上に対してでも、「～つもり」を使って相手の意志を尋ねることができる、ということになる<sup>15)</sup>。

つまり、「～つもり」を用いた意志疑問文では、「現実の、今、この場」での意志は相手がだれであろうと尋ねることはできず、「現場性」が弱まった「遠い未来の話」であれば目上に対してであってもその意志を尋ねることは可能になる。これは、上記で見た「～たい」を用いた願望疑問文と同様である。すなわち、願望疑問文に見られた「現場性条件」は、「～つもり」においても成り立つと言えるのではないだろうか。

実際、「遠い未来」とまでは言えず、「現場性」がそれほど弱くない、鈴木<sup>16)</sup>の挙げた例は、目上に対しては失礼であるが、親しい間柄なら可能になる。

(43) a. 学生：\*先生は夏休みは何をなさるおつもりですか。(鈴木

(1989) の (15))

b. 友達：陽子は夏休み、何するつもり？

現場性が弱まれば聞き手の私的領域も弱くなって、その結果、親しい間柄なら立ち入ることができるようになったと考えられる。

このように、「～たい」を用いた願望疑問文に見られた「現場性条件」は、同じ「聞き手の私的領域」に属する「～つもり」を用いた意志疑問文にも同様に観察されると言える。このことより、「聞き手の私的領域」の程度の強弱は、願望疑問文に関してのみ見られるものではなく、もっと広く「聞き手の私的領域」全体に存在している可能性があると考えられるのではないだろうか。

## 5. 終わりに

以上、「～たい」を用いた願望疑問文について、その使用条件として新たに「現場性条件」を提起し、その検証を行ってきた。「現場性条件」は、「現実の、今、この場」という「現場」に「聞き手の私的領域」が最も強く存在しており、そこには親しい者であっても踏み込むことは許されないが、ここから離れるにつれて「聞き手の私的領域」が弱くなり、親しい者、さらには十分離れれば目上であっても、立ち入ることが可能になってくる」というものである。

これによって、従来、「聞き手の私的領域」を侵害するために目上に対しては使えないとされてきた「～たいですか」という形式が、「現場性」が相当に弱くなる「想像上の話」や「遠い未来の話」の場合には使用可能になること、また、親しい間柄であれば使用制限が問題にされなかった「～たい？」という形式が、「現場性」が最も強い「現実の、今、この場」にある眼前の特定の現物に対する願望」を尋ねる場合は不自然になること、も包括的に説明可能となった。さらには、「～たいですか」と同様、「聞き



## 日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

手の私的領域」に踏み込んでしまうために目上には使えないとされてきた「～つもりですか」についても、この「現場性条件」からその許容度の差が説明できる可能性があることも見た。

これが願望疑問文や意志疑問文に限ったことなのか、あるいは「聞き手の私的領域」に関わる文法に広く適用できることなのかはさらなる研究が必要である。また、こうした使用条件をどのような形でどの段階に日本語学習者に伝えるのが最も適切かも課題である。構造シラバスの教科書を使用していれば、「～たいですか」を学ぶ段階では、「～たい？」も、想像上の話をするとき用いる「もし～たら」も、未習であるのが一般的であるためである。学習者がより適切にこの表現を使いこなしていける方策を、今後、探っていきたいと思う<sup>16)17)</sup>。

### 注

- 1) 鈴木陸 (1989) 「聞き手の私的領域と丁寧表現 ——日本語の丁寧さは如何にして成り立つか——」『日本語学』2月号 pp. 45-76 明治書院, pp. 59-60
- 2) 鈴木陸 (1989) 「聞き手の私的領域と丁寧表現 ——日本語の丁寧さは如何にして成り立つか——」『日本語学』2月号 pp. 45-76 明治書院, pp. 61
- 3) 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1998) 『敬語表現』大修館書店, pp. 212
- 4) 庵功雄・松岡弘・中西久実子・山田敏弘・高梨信乃 (2000) 『初級を教える人のためのハンドブック』スリーエーネットワーク, pp. 323
- 5) 庵功雄・中西久実子・高梨信乃・山田敏弘・白川博之 (2001) 『中上級を教える人のためのハンドブック』スリーエーネットワーク, pp. 241
- 6) 市川保子 『初級日本語文法と教え方のポイント』(2005) スリーエーネットワーク, pp. 88
- 7) 友松悦子・和栗雅子・宮本淳 (2010) 『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』アルク, pp. 120
- 8) 高嶋幸太・関かおる・岩原日有子・内山聖未・川野さちよ・チャンティミー (2018) 『初級者の間違いから学ぶ 日本語文法を教えるためのポイント30』大修館書店, pp. 135

- 9) 鈴木陸 (1989) 「聞き手の私的領域と丁寧表現 ——日本語の丁寧さは如何にして成り立つか——」『日本語学』2月号 pp. 45-76 明治書院, pp. 61
- 10) このように、眼前の物について「～たい？」と使うと、悪意のある含意が感じられる。注17) の (51) 「いっしょに來たい？」も同様である。これはおそらく、本来なら「～たい？」を使ってはならない領域Aにおいてあえてその禁則を破って「～たい？」が使われたことを何とか解釈しようとした脳の働きの結果、そこに悪意のある含意を感じ取る、ということではないだろうか。実際、この「～たい？」だけでなく、「聞き手の私的領域」を侵害するとされる他の表現でも、領域Aで使用された場合、純粋な気持ちでない何らかの含意を感じる。例えば、本稿4. に挙げた「～つもり？」は領域Aで使うと詰問のように聞こえ、また、以下のように相手の今の気持ちを尋ねた場合は、「この程度のことで喜ぶレベルだよね」あるいは「私がプレゼントをあげたんだから当然うれしいよね」と相手を見下したような含意を感じる。
- (44) 娘：お父さん、今日は父の日でしょ。ほら、プレゼント買ってきたよ。うれしい？
- 11) これは友松・和栗・宮本 (2010) で、
- 丁寧に聞く場合や、目上の人には直接使わないほうがいい。(おみやげ屋で) 課長、何が買いたいですか。→○課長、何を買いになりますか。として挙げられている文である。
- 12) もちろん、親しい間柄の「～たい？」を領域Cの想像上の話で用いた場合は、領域B同様、許容度が高い。以下、(45) は (26) を姉妹間の会話に変えたもの、(46) は (30) を兄弟間の会話に変えたものであるが、現実の話であっても (a) 想像上の話であっても (b) どちらも問題なく許容される。
- (45) a. (昼食を食べようとして、二つのレストランの前で)
- 妹：うーん、どっちのお店もおいしそうだねえ。お姉ちゃん、どっちに入りたい？
- b. 妹：お姉ちゃん、ちょっと相談に乗ってくれない？これ、今考えてる新しい店のデザイン案なんだけど、もしお姉ちゃんがお客さんになってこの店の前にいるとしたら、AとBのどっちに入りたい？
- (46) a. 兄：佳子、ちょっと家の中のwifiのルーターの場所、考えて

日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

るんだけど、お前、自分の部屋でもパソコン使いたい？

b. 弟：昨日、ネットでやってた映画で、指輪サイズのパソコンってのが出てきたよ。

兄：あ、それ、おれも見た。あんなのあったらすごい便利だよなあ。おまえ、ああいうのが開発されたら、やっぱり使いたい？

13) これも、上記11)同様、親しい間柄の「～たい？」を領域Cの遠い未来の話で用いた場合は領域Bと変わらず許容度が高い。以下、(47)は(32)を家族間の会話に変えたもの、(48)は(36)を兄弟間の会話に変えたものであるが、現実の話であっても(a)想像上の話であっても(b)どちらも問題なく許容される。

(47) a. (ビュッフェ形式の懇親会で)

娘：お母さん、何食べたい？取ってくる。

b. (雑談で)

妹：今日見た雑誌でさ、「人生最後の晚餐」という特集やってたよ。

姉：へえ。最期の日のメニューか。

妹：うん。お姉ちゃんは人生最後の日に何が食べたい？

(48) a. 兄：今日、武史が海外赴任先から帰ってくる予定でさ。現地の酒とか食べ物とかみやげがいろいろあるらしくて。

弟：そうか、武史くん、帰ってくるのか。いいな。今晚は親子で一杯やりたいかい。

b. 弟：親子で酒を酌み交わすっていいよな。

兄：ああ、そうだなあ。陽一はまだ幼稚園だからずいぶん先の話だけど。

弟：あはは、そうだな。でも、陽一くんが成人したら、やっぱり親子で一杯やりたいかい。

14) 鈴木睦(1989)「聞き手の私的領域と丁寧表現 ——日本語の丁寧さは如何にして成り立つか——」『日本語学』2月号 pp. 45-76 明治書院, pp. 62-63

15) 「～つもり」は計画性がある場合に用いられる形式であるため、「想像上の話」には意味上使えず、ここでは「遠い未来の話」のみを検討の対象とした。

- 16) 現在, 国内外で最も広く使用されている初級の日本語総合教科書である『みんなの日本語』(スリーエーネットワーク)では, 学習者が見る『翻訳・文法解説』の, この「～たい」を学ぶ第13課に以下の記述がある (pp. 86)。

[Note 2] Neither ほしいですか nor V ます -form たいですか should be used when offering someone something or inviting them to do something. For example, コーヒーが ほしいですか or コーヒーが のみまいですか are not proper ways of asking someone if they would like a cup of coffee. In this case, an expression such as コーヒーは いかがですか or コーヒーを のみませんか should be used.

「～たいですか」は, 物を勧めたり何かに誘ったりする場合には使えないとの意である。

確かにこれは正しい。ただ, 「～たいですか」が使えないのは勧めや誘いの場合だけではない。例えば, 本稿の上掲 (18) や (21)・(23) などは勧めでも誘いでもないが, やはり b は失礼である。

(18) a. 社内の I T 担当社員: テレワークご希望でしたら設定をいたしますが, 部長はご自宅でもパソコンをお使いになりますか。

b. 社内の I T 担当社員: \*テレワークご希望でしたら設定をいたしますが, 部長はご自宅でもパソコンをお使いになりたいですか。

(21) a. (夜, 退社時に)

社員: すっかり遅くなりましたね。課長, ご一緒にお食事でもいかがですか。

課長: うん, そうだな。行こうか。

社員: 何を召し上がりますか。

b. (夜, 退社時に)

社員: すっかり遅くなりましたね。課長, ご一緒にお食事でもいかがですか。

課長: うん, そうだな。行こうか。

社員: \*何を召し上がりたいですか。

(23) a. (昼食を食べようとして, 二つのレストランの前で)

## 日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

社員：うーん、どっちの店もうまそうですねえ。部長、どちらにお入りになりますか。

### b. (昼食を食べようとして、二つのレストランの前で)

社員：\*うーん、どっちの店もうまそうですねえ。部長、どちらにお入りになりたいですか。

この記述のみだと、勧めや誘い以外であれば「～たいですか」はいつでもだれにでも使えると学習者が誤解してしまう恐れもある。

また、第13課の段階では普通形をまだ学習していないため、「たいですか」の普通形である「～たい？」との使用条件の違いについてもここでは言及されていない。

- 17) 庵・中西・高梨・山田・白川(2001)では、「対照研究(3)―「いっしょに行きたいですか」―」の中で、「願望疑問文はウチの相手になら以下の場合に使用できるので、日本語教育ではこれを完全に避けて通るわけにはいきません。」とした上で、以下の2つの場合を挙げ(pp. 241),

① 純粋に聞き手の気持ちを聞きたい場合(ウチの相手に対して)

② 答えがYESとわかっている場合の申し出、勧誘(ウチの相手に対して)

それぞれについて、以下の例を示している。

①について：○また行きたい？

②について：○a. 取ってきてほしい？(申し出)

b. いっしょに来たい？(勧誘)

①の「純粋に聞き手の気持ちを聞きたい場合」というのが何を意味しているのか明確ではないが、「申し出や勧誘の意図ではない場合」と解釈すると、こうした意図なしに「～たい？」と親しい間柄に尋ねるのは許容されるということになる。だが、上掲(16)bは申し出でも勧誘でもなく、相手の気持ちを聞いているだけであるが、「～たい？」は許容されない。

### (16) b. (友人との買い物中)

A：ああ、疲れた。ちょっと休みたいね。

B：\*そうだね。……あ！ほら、あの「ami」っていう喫茶店、けっこう評判なんだって。入りたい？

また、以下の例も、申し出でも勧誘でもないが、やはり「～たい？」で聞

くと「腐ったものでも食べたがる意地汚い人間だ」というような含意が感じられてしまい、不自然である。「食べる？」と聞くのが普通であろう。

(49) 妹：あー！どうしよう！

姉：どうしたの？

妹：後で食べようと思って取っとしたケーキ、忘れてた……。

姉：えー！あの3000円もしたやつ？もう1週間も前でしょ？もったいなーい！

妹：\*変なおいほしなくけど……やっぱり捨てた方がいいかな……お姉ちゃん、食べたい？

②の「答えがYESと分かっている場合の申し出、勧誘」も、会話状況が書かれていないのではっきりほしくないが、「申し出」の場合、もし以下のような状況であれば、やはり「ほしい？」を使うのは逆に不自然で、「取ってこようか？」の方が自然ではないかと思われる。

(50) 父：おーい、だれかー、お父さんのめがね知らんかー？

娘：\*めがね、洗面所にあったよ。取ってきてほしい？

また、「勧誘」の方も、以下のような状況であれば、「来たい？」を使うとじらしているような悪意を感じてしまう。「来る？」の方が許容度が高いであろう。

(51) 姉：聞いて！ARASHINのラストコンサートのチケット、手に入ってたんだ！

妹：えー！うそー！すごい！コンサート行けるんだ……うわあ、いいないいなー……。

姉：\*ほら、チケット2枚あるんだけど、どう？いっしょに来たい？  
答えがYESとわかっている場合に「～たい？」が使えるというのは、答えがNOとわかっている場合にあえて「～たい？」と聞くことは状況的にありえないということではないだろうか。実際、YESとわかっている以下の(52) aと答えがわからない(52) bに大きな違いはないように感じられる。

(52) a. 父：ん？おまえたち、出かけるのか？

母・娘：うん、ショッピングに。

父：へえ……いいな……楽しそうだな……。

娘：お父さんもいっしょに来たい？

## 日本語の「～たい」を用いた願望疑問文の使用条件に関する一考察

b. 父：ん？おまえたち、出かけるのか？

母・娘：うん、ショッピングに。

父：そうか。

娘：お父さんもいっしょに来たい？

ただ、庵・中西・高梨・山田・白川（2001）がその続きに記している以下の記述には同意する。

日本語の願望疑問文の誤用がなくなるのは上記のような二つの原因が複合的に関与しているためです。運用論的に許容される場合とされない場合があって学習者の混乱を招くこと、そして、一部の学習者には母語の運用論的制約の欠如による干渉があることです。単に言語形式を対照するだけでなく、運用論的制約も対照しながら指導することが必要だと言えます。

学習者の日本語運用力の向上のため、今後も引き続き努力していきたい。

### 参考文献

- 庵功雄・松岡弘・中西久実子・山田敏弘・高梨信乃（2000）『初級を教える人のためのハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵功雄・中西久実子・高梨信乃・山田敏弘・白川博之（2001）『中上級を教える人のためのハンドブック』スリーエーネットワーク
- 市川保子『初級日本語文法と教え方のポイント』（2005）スリーエーネットワーク
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）『敬語表現』大修館書店
- 鈴木睦（1989）「聞き手の私的領域と丁寧表現 ——日本語の丁寧さは如何にして成り立つか——」『日本語学』2月号 pp. 45-76 明治書院
- スリーエーネットワーク（2012）『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説 英語版』スリーエーネットワーク
- 高嶋幸太・関かおる・岩原日有子・内山聖未・川野さちよ・チャンティミー（2018）『初級者の間違いから学ぶ 日本語文法を教えるためのポイント30』大修館書店
- 友松悦子・和栗雅子・宮本淳（2010）『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』アルク

## A Study on the Conditions for Using the Desire Interrogative Sentence Using “-tai” in Japanese

SHIMA Chihiro

As for “-tai”, which expresses a desire in Japanese, many descriptions have been made regarding the conditions of use. One of them is that “the form of the question” –tai desuka? “is rude when used for superiors and unfamiliar listeners.” (ex: “Teacher, do you want to eat ice cream?”) It has been said that this is because the listener’s desire belongs to the “listener’s private realm” and it is not allowed to step into it. On the other hand, in the form of “-tai?” asking a close listener for a desire, the restriction on its use has not been a problem in the past.

In this paper, I pointed out that there are cases that it may not be rude to use “-tai desuka?” for superiors, and conversely, it becomes unnatural to use “-tai?” even for close listeners. And, I have raised new conditions of use for the desire interrogative sentences that use “-tai”. In this paper, it is called “Genba-sei condition”. This condition is: there are the degree of strength in the “listener’s private realm” to which the listener’s desires belong, and it exists most strongly in the “Genba” of “real, now, this place”, and weakens as it deviates from it. Therefore, the naturalness of the desire interrogative sentence changes accordingly. As a result, when the “Genba-sei” is the strongest (area A), it is not allowed to ask the listener’s desire even if the relationship is close, and, when it weakens slightly (Area B), it becomes easier for others to enter in the “listener’s private realm”, and the person with close relationships are allowed to ask the listener’s desires. When the “Genba-sei” is further weakened (area C), the restrictions are further relaxed, and for even superiors we can ask their desires.



The desire of Area A, which has the strongest “Genba-sei”, is the desire for a specific real thing in front of us, which is in reality. The desires of Area B, where “Genba-sei” is a little weak, are (1) when the object of the desire is not in front of you, and (2) when the object of the desire is an interrogative word. The desires of Area C, where “Genba-sei” is even weaker, are considered to be (1) desires in imaginary stories and (2) desires in stories in the distant future.

In this paper, we have verified the above and confirmed that the “Genba-sei condition” is satisfied in the desire interrogative sentence. Furthermore, it was mentioned that this “Genba-sei condition” is observed in the intention interrogative sentence “-tsumori desuka?”, which has been thought that it cannot be used for superiors because it belongs to the “listener’s private realm” as well as “-tai”. And, I also touched on the possibility that the “Genba-sei condition” in the “listener’s private realm” is not only a desire interrogative sentence but also a more widely observed one.